

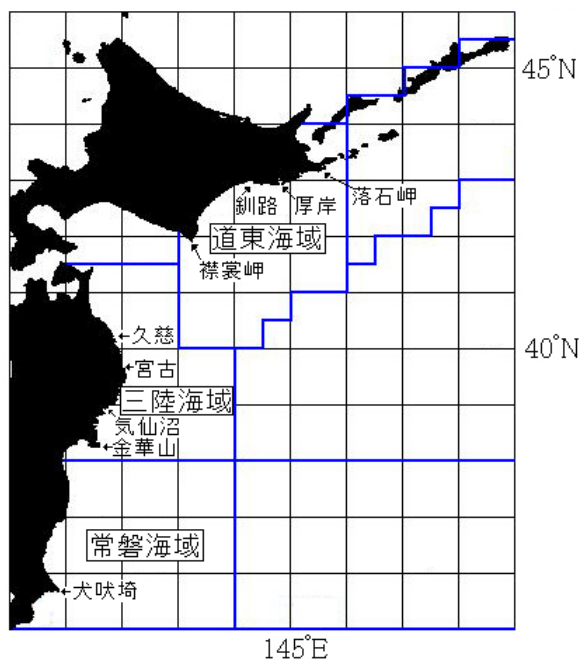
平成26年度 第4回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2014年10月中旬～11月下旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、10月中旬は中位水準であるが減少する。
- ・三陸海域では、10月中旬は中位水準となる。
- ・常磐海域では、10月中旬は断続的ではあるが来遊がある。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 事業二課

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

独立行政法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

平成26年度 第4回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2014年10月中旬から11月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

10月中旬以降、来遊量は減少する。10月中旬は中位水準であるが、10月下旬は低位水準となる。11月上旬は断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場

10月中旬～下旬は、落石南東沖～襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬は、襟裳岬沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

来遊量は徐々に増加し、10月中旬～下旬は中位水準となる。11月上旬～中旬は、中位水準であるが来遊量はゆるやかに減少する。11月下旬は、低位水準となる。

(2) 漁場

10月中旬～11月上旬は、三陸北部～南部が漁場となる。11月中旬～下旬は、三陸南部に漁場が残る。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

10月中旬は、断続的ではあるが来遊がある。来遊量は徐々に増加し、10月下旬～11月上旬は低位水準、11月中旬～下旬は中位水準となる。11月下旬から、来遊量は減少する。

(2) 漁場

10月中旬～下旬は、常磐北部に漁場が形成される。11月上旬に常磐南部まで漁場が広がり、11月上旬～下旬は、常磐北部～南部で漁場が形成される。

2. 予測の概要

海 域		10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位減少	低位減少	断続的		
	漁 場	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	襟裳岬沖		
三陸海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位水準	中位減少	中位減少	低位減少
	漁 場	北部～南部	北部～南部	北部～南部	南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	低位増加	低位増加	中位増加	中位減少
	漁 場	北部	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部

3. 漁況の経過概要（9月下旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年および前旬を上回り、中位水準となった。道東海域よりも北東側の花咲港東北東～南東沖における来遊量の水準は、前旬を下回ったが、高位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は徐々に増加した。

(2) 漁場

道東海域では、落石南南東～厚岸南沖、襟裳岬東沖、襟裳岬南沖に漁場が形成された。落石南南東30～40海里～厚岸南30海里付近（14～17℃）では、小型船多数と大型船数隻が操業し、大型船で最高75トン、平均28トン漁獲した。小型船は満船となる船が多かった。襟裳岬東北東40海里～東南東20海里付近（15～17℃）では、21～22日夜に大型船が5隻程度操業し、最高57トン、平均30トン漁獲した。襟裳岬南30海里～南南西80海里付近（15～18℃）では、22日夜以降、大型船が数隻～40隻程度操業し、最高120トン、平均39トン漁獲した。なお道東海域よりも東側の、花咲港東北東～南東沖（12～16℃）では、多くの船が操業し、好漁であった。

(3) 魚体

大型魚主体であり、中型以下の魚が1～3割程度混じった。体長30～31cmモード主体で、大型魚の体重は150～170g台主体であった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した三陸海域における来遊量の水準は、前年および前旬を上回ったが、低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、27日夜以降、来遊量は増加した。

(2) 漁場

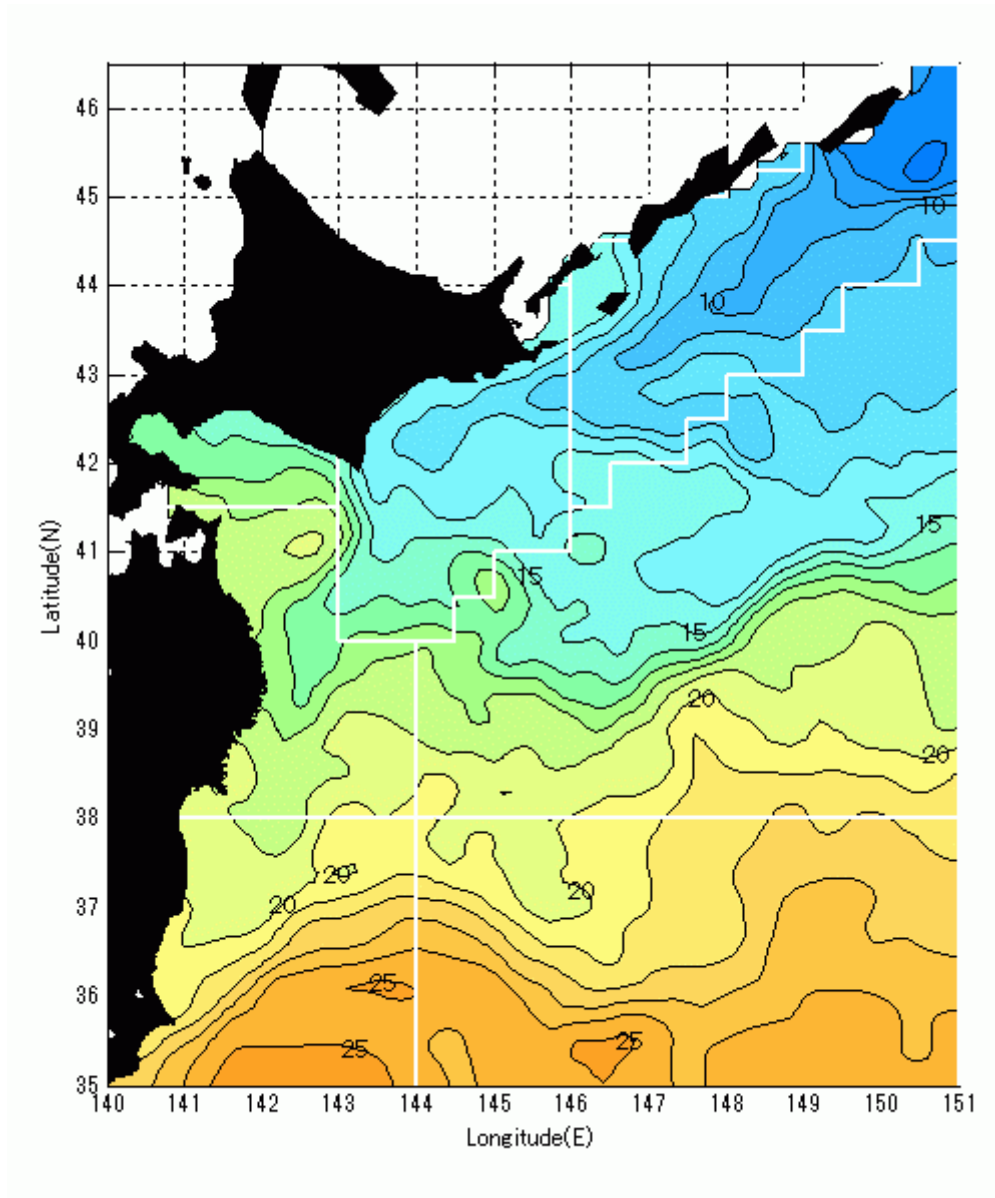
三陸海域では、久慈東北東沖～釜石東沖に漁場が形成された。久慈東北東50海里～東南東30海里付近（15～19℃）では、27日夜以降、大型船が数隻～20隻程度操業し、最高125トン、平均33トン漁獲した。宮古東20海里～釜石東20海里付近（18～20℃）では、29～30日夜に大型船が10隻程度操業し、最高115トン、平均52トン漁獲した。

(3) 魚体

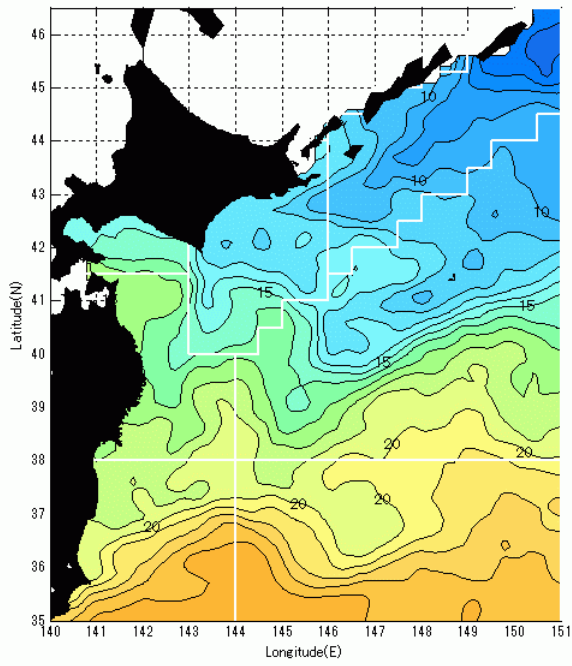
大型魚主体であり、中型以下の魚が1～2割程度混じった。体長30～31cmモード主体で、大型魚の体重は140～160g台主体であった。

4. 予測水温分布図

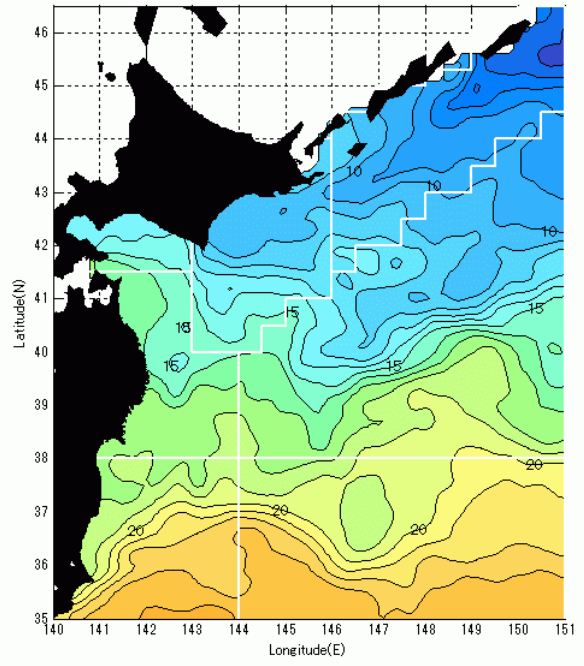
10月中旬予測表面水温分布図



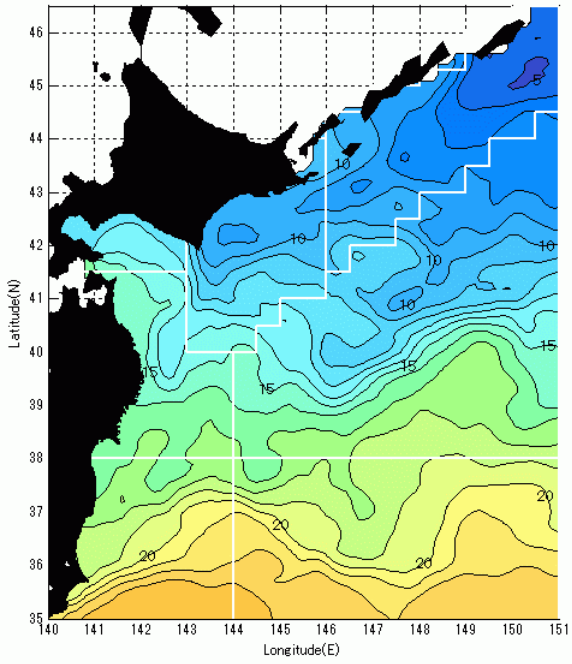
10月下旬予測表面水温分布図



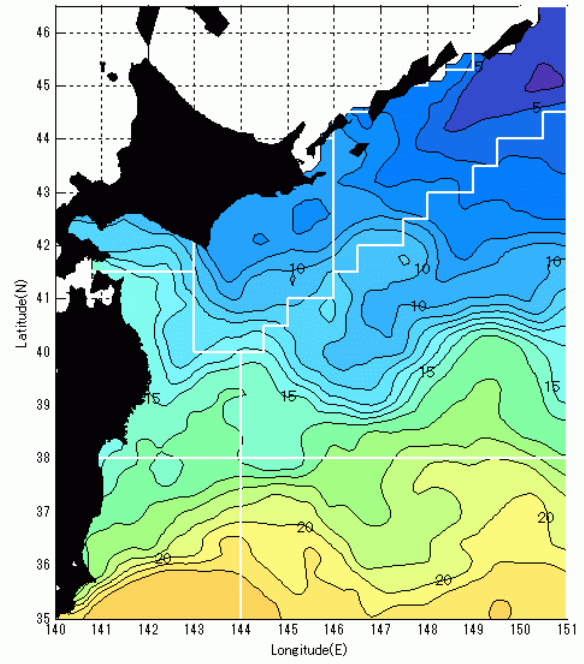
11月上旬予測表面水温分布図



11月上旬予測表面水温分布図



11月中旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	---